



フラクタル心理学は人生運転メソッド ― 受講生の感動ストーリー 1

TAWプレスでは毎号、フラクタル心理学を生かして人生をバージョンアップした方たちの感動ストーリーをお届けします。まず始めは、フラクタル心理学を学んで、これまでしてきたことが間違っていなかったとわかり、夫への愛が深まって、さらなる自分自身の成長を目指したくなったという島田良子さんからお聞きしたお話です。

妻として夫の成功を後押ししてきたと自分を肯定できるようになって

家庭をしっかり守り、夫の会社は年商10億円にまで成長しました。

■ 自分に価値を感じられずにフラクタル心理学を学ぶ

18歳で結婚して19歳で母になりました。主人はガソリンスタンドの店員として働いていましたが、家計に余裕はなく、千円札を握りしめて買い物に行く毎日でした。数年後、主人は赤字だったガソリンスタンドを黒字にしたことから声が掛かって、不動産会社に転職しました。バブル全盛期に大きく業績を伸ばして支店長になり、その後、独立すると、主人の会社は年商10億円にまで成長したのです。

3年前からは、主人が買収したゲーム会社の経理担当として私も働き始めました。世間からは成功した夫婦と見られますが、主人の才覚でここまでできたのであって、私は2人の子どもの子育てと家事をしてきただけ、主婦だけしてきた私には価値がないと、自分のことをお荷物のように感じていたのです。

その頃、ある会でフラクタル心理学講師と出会い、それがきっかけで、マスターコースからフラクタル心理カウンセラー養成講座まで一気に受講しました。

■ 妻としての自分の働きを再認識する

フラクタル心理学は「思考が現実化する」という理論で、「相手は自分の深層意識の投影」であると考えます。講師からは、「ご主人が経営者として成功したのなら、島田さんの深層意識にも成功の思考があり、家庭をしっかり守ってきたからこそ、ご主人が成功したのです」と言われました。

たしかに、主人の負担にならぬように、家庭内のことはすべて私が決めてきました。家庭をリラックスできる場にするために、グチは慎むようにし、家の掃除に励みました。私がすることは主人の邪魔をすることなく、気持ちよく仕事に送り出



ご主人と一緒に会食

すこと、思いっきり仕事をしてもらうことなのだと思ってやってきました。

それを講師から指摘されたことで、私は妻としての務めをきちんと果たしてきたのだと、自分自身を肯定することができたのです。モヤモヤとした気持ちが消え去り、すがすがしく誇らしい気分へと変わりました。



フラクタル心理カウンセラー

島田 良子 さん

富山県在住

■ 夫の働きや愛を再認識する

フラクタル心理学を学び進める中で「男性にとっては稼ぐことが愛」とも教わりました。主人にとっては私たち家族が働く原動力であり、養ってくれているのは愛ゆえのことと感じていたので、「稼ぐことは愛」ということも領けました。通勤のためにと主人から贈られた車や時計も、私がしてきたことを認めてくれた上でのご褒美だと理解すると、喜びがあふれ、主人の愛が身に染みました。

「どうしてこの会社を買収したの？」とゲーム会社のことを聞いたときにも、「お前にちゃんと給料をあげたかったから」と。もちろんそれだけではないにしろ、家のことしか知らない私に、働いた分のお給料をもらう喜びや、社会というものを実感させたかったのでしょう。

主人の近くで働き始めてわかったのは、主人がいかにスピーディに決断を下し、多くの人と会い、人の何倍もの仕事をこなしているかということでした。フラクタル心理学では「夫は親も同然。夫を立てるように」と言われましたが、経営者としての主人の姿を目の当たりにして、一段と主人への尊敬の度合いが増しました。

■ アゲ妻講座を開くようになる

フラクタル心理学で「女性が美しくあることも周りへの愛」